

2012年度 松蔭中学校 高等学校 学校自己評価報告

松蔭中学校 松蔭高等学校

これは分掌（各学年担任団、校務担当各部）ごとに下記要領で実施した「2012年度学校自己評価」を報告するものです。

- ① 自己評価は次の12領域（部署）ごとに実施した。
 - ・各学年団（中学1年～高校3年の6学年）
 - ・校務分掌各部（教務部、生徒部、宗教部、総務部、進路指導部、入試広報室）

- ② 評価法
 - ・年度初めに、評価対象、評価項目、実践目標等を設定した。
 - ・年度末に、実践内容について評価した。
 - ・評価は、A（よくできた）、B（できた）、C（あまりできなかった）、D（できなかった）の4段階とした。

- ③ 改善・向上策
 - ・上記評価に基づき、改善策・向上策を検討し記載した。

中学1年生

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
中学1年	学年目標	学年の目標の理解と実践	「人にやさしく」という目標設定の理由を説明し、具体的に実践させる。	1. オリエンテーションキャンプ・学年集会・各クラスでのHR等で取り上げ、実践を促すとともに、啓発活動を行った。 2. 学年の掲示板や教室にこの目標を掲げて、常に意識するようにした。	B	言葉や気持ちの上で理解している。実際他者との関係で、実践できない部分がある。今後具体的な指導や1年を通して話題に取り上げるが必要である。
	学習指導	指導方針の確認と指導体制の推進	年度初めに方針の確認をする。	1. 教師間の情報交換して、共通の理解を持ち生徒指導にあたるよう心がけた。 2. クラスによって指導に違いが出ないように、基準を決めて指導にあたった。	A	教師間での話し合い、共通理解は充分にできた。
	基礎学力の定着と学習意欲の向上	中学の授業形態に慣れさせ、自主的な学習を促す。「学習習慣をつける」というブロック目標を実践する。	1. 「学習のとりくみ」を作成、配布。 2. 授業の準備や宿題、提出物など、すべきことをきちんと取り組めるように連絡帳を持たせた。 3. 「学びのとき」の朝礼前に読書やドリルなどの学習に取り組んだ。 4. 学習計画表を用いて、考査前の計画的な学習の取り組みを考えさせた。 5. 成績不振の生徒に対するの追試、補習を考査ごとに実施。また、希望者対象の学習講座も実施。 6. 学外の生徒の学習程度を意識できるよう希望者実力を学期ごとに実施。 7. 百人一首やレシテーションコンテストを実施し、意欲を引き出した。	A	各教科に対して、毎日の宿題や課題の提出の徹底をお願いした。継続して行く必要がある。「学びのとき」の学習は、各自しっかりと取り組んでいた。学習計画表を3学期に方法を変えて取り組んだ。今後も検討が必要である。成績不振者には、定期考査ごとに追試や補習を実施することができた。希望者実力テストへの参加者を増やす工夫や指導が必要。	
総合学習	1. 地域に関する学習 2. 進路についての学習 3. マナーの学習	1. 自分が生活する地域について関心を持ち、知る努力をさせる。 2. 現在の自分を見つめ、松蔭での今後の生活について考えさせる。 3. 小笠原礼法を学び、基本的なマナーを身につけさせる。	1. 夏休みの期間に「工場見学」の作成に取り組み、作品を掲示。また、仕事に関するインタビューをレポートにまとめた。夏のキャンプの「絵日記」を班で協力して作成させた。優秀作について、表彰やクラス前の掲示板に展示するなどした。 2. 「未来予想図」「進路ライブ」を通して、自己を振り返り、「中学2年生の決意表明」をさせ、来年度の学校生活へのモチベーションを高めた。 3. 各クラス8回の講義および実習を行い、学年末には「復習テスト」で、知識の定着を確認する作業を行った。	B	「工場見学」新聞は、工夫した作品があった。進路についての図書館での調べ学習も熱心に取り組んでいた。「マナー」講義は、全クラス同時に実施が困難であり、生徒間でも共通の話題としてあがりにくい点が問題。	
学年行事	1. オリエンテーションキャンプ 2. 夏のキャンプ 3. 遠足、校外学習	1. 松蔭を知り、松蔭生としての自覚を持たせ、友人や教師との交流をはかる。 2. 自然に親しみ、集団生活の中で規律を守り、協力しながら行動させる。 3. 自然に親しむ。友人と交流を深める。	1. 友だち作りと先生との交流を図るため、各種ゲームを行い、また、多くの先生方の協力の下、その機会をつくった。 2. リーダー（卒業生）の協力の下、集団での規則正しい生活とルールを守ることの大切さを伝えるようにした。また、友だちと協力してことを成し遂げる充実感を知ってもらうよう、その機会を用意した。 3. 天候に恵まれ春空の下、飯ごう炊さんを実施。友達との交流を深める好機となった。秋の校外学習では、「キッザニア甲子園」で仕事体験のスケジュールを考え、仕事の大切さや生きる力を学んだ。	A	生徒の距離が縮まり、入学式後の学校生活をリラックスして迎えることができていた。その反面で、緊張感がなくなってしまうように感じる場面も見られた。先輩の話に耳を傾け、自分の今とこれからを考えるよい機会となった。2年生への決意表明を書いたが、それが現実となるよう、教師が生徒に関わっていく必要がある。総合学習の進路との組み合わせで、将来について考えさせることができた。	

中学2年生

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
中学2年	学年目標	学年目標の徹底	中1からの継続目標として、「自他を大切にすること」を、また中2からの目標として「学習習慣をつけよう」を、常に心がけるようにさせる。	1、「標語」を廊下、教室に掲示した。 2、総合学習の「生き方」の中でも取り上げ、その意味を考えさせた。	B	日常生活の中で、より意識させるような呼びかけがあると、更に効果的である。
	生活指導	指導方針の確認と指導体制の推進	学校の規定を遵守させる。年度初めに方針の確認をする。	1、毎朝の朝礼や月1回クラス報告会を行い、学年の教師間で、常に生徒の情報を報告、共有し合った。 2、保護者との連携を密にし、協力しながら指導にあたった。	B	共通理解のもと指導をしていくことができた。ただ、規定を遵守させるためには今後も根気強い指導が必要だと思われる。
	学習指導	学習意欲の向上と学力の定着	授業を大切にすることを徹底させる。 自宅学習の習慣を身につけて基礎学力をつける。	1、開始時間が守れるよう、廊下で呼びかけの指導にあたった。 2、考査ごとに、成績が不十分だった生徒対象に補習・追試を行った。 3、考査2週間前から毎朝朝礼5分前に試験対策のための学習会「ミニミニテスト対策講座」を実施 4、考査2週間前から放課後に自主学習を呼びかけ、教師監督指導の下、「学習教室」を開いた。 5、年3回実力考査を実施すると共に、学期ごとに希望者のための実力考査とその解説を実施。	B	それなりの意識づけはできたと思われる。 定着度合いは生徒によって差がある。学習習慣を定着させるのは難しいが、必要に応じた手法・指導を工夫、継続することで、それぞれの意欲を高め、学習習慣へとつなげていく必要がある。
	総合学習	「いのち」の学習	「生」「死」「生き方」の3つのキーワードに基づいて「いのち」について深く考えさせる。	1、1学期は「生」2学期は「死」3学期は「生き方」をテーマに、生徒自身が「いのち」の大切さを考える時間を持った。材料として、ワークシート、講演会、DVD鑑賞、写真絵本なども使用。	A	友人、教師、外部講演者、保護者などさまざまな人の考えを参考にしながら、生徒は自身の考えを導き出そうと熱心に取り組んだ。
	学年行事	海洋キャンプ	1、協調性を育てる。 2、海洋スポーツの楽しさを知る。 3、自然のすばらしさを知り、自然環境の大切さを学ぶ。	1、四種目の海洋スポーツに取り組んだ。 2、生活班を決め、食事清掃等の共同作業に取り組んだ。	A	海洋スポーツを通して、協力して作業することの大切さや難しさを熱心に学んだ。 指導員の方への「あいさつ」など、礼儀面を日常的に指導していくことが必要である。
		遠足	自然に親しむ。友人と交流を深める。	前年度の反省を受けて、コースを修法ヶ原方面へ変更した。	A	中2としては適当なコースで、先頭と最後尾もさほど開きが出ることなく、到着できた。
		校外学習	自然に親しむ。友人と交流を深める。	「総合学習」の取り組みともかね、「野島断層」を見学。道中車内で、阪神大震災で被災された方のインタビュー番組を視聴させた。「イングランドの丘」ではグループで自由散策。	B	「北淡震災記念公園」は修学旅行・遠足で非常に混雑しており、じっくり学習しづらい環境であった。時期・内容の検討が必要である。

中学3年生

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
中学3年	学年目標	学年目標の徹底	1、中1からの継続目標として、「よく見る・よく聴く・よく考える」を常に心がけるようにさせる。	学年の掲示板と各クラスの教室に掲示し、意識付けをはかった。また、行事や学年集会等で目標を示し、生徒への意識付けを行った。	B	目標を実行していこうとする生徒も見うけられ、それなりの意識づけはできたのではないかと思う。
	生活指導	指導方針の確認と指導体制の推進	1、学校の規定を遵守させる。年度初めに方針の確認をする。 2、教師の姿勢を一致させる。 3、違反行為などについて、根気強く指導を続ける。	1、学年の教師の間で、常に生徒の情報を報告・共有し、共通の理解と指導ができるようにした。 2、クラスによって指導に差が出ないように確認しあった。 3、保護者との連絡を密にして、家庭の協力も得ながら指導した。 4、遅刻の多い生徒に対して、保護者と共に原因と対策を話し合うことを要望する「注意文書」を郵送し、返事を送付してもらった。	B	ほぼ達成できた。 職員室で、随時クラスのこと、生徒のことなどを話題にし、共通理解をふかめた。 密に保護者に連絡を行い、問題解決に協力を求めた。 「注意文書」を送付した生徒については、その後、遅刻は減った。
	学習指導	学習意欲の向上と学力の定着	1、教室移動を早くし、授業準備を確実にやる。なによりも授業を大切にすることを徹底指導する。 2、高校進学を前にした、大切な準備期間であることを生徒自身に自覚させる。	1、休み時間や授業中の巡回を時々行い、生徒に声かけを行った。また、個人面談などにより、各自の学習状況を把握し、指導を行った。 2、夏休み明けに、授業態度と宿題の提出状況などを把握するため、「授業態度に関するアンケート」を、教科担当者全員に実施し、現状を確認した。 3、定期考査以外に5教科の「実力テスト」を、学期ごとに実施した。 4、1、2学期に3教科の「希望者実力テスト」を実施した。 5、夏休みに英語の英検対策講座、数学の基礎／応用講座・理科の実験講座を実施した。 6、3学期から、早朝の自習勉強会（「朝学」の場所として教室を用意した。 7、3学期の総合の時間「進路ライブ」で高校3年生の体験談を聴く会を持った。	B	自主・自律の精神で行動できるまでは難しいかもしれないが、注意されたことや、指示されたことについては、素直に行動できる生徒が増えた。 希望者実力テストや「朝学」への取り組みについて、積極的に取り組もうと生徒がいたことは評価できるが、その数がなかなか増えなかった。さまざまなアプローチでの取り組みが、今後必要である。 「進路ライブ」については、みんな真剣に聞けていた。先輩へのメッセージ（感想文）も、各自しっかりと書けていた。
総合学習	平和学習	1、戦争体験者へのインタビューや事前学習などを通して平和について考える。 2、平和実現のために自分ができることを考える。	1、1学期は「戦争体験を聴く会」を実施。 2、2学期は広島市の被爆体験者による「被爆者講演会」や、戦争・平和を考えるための「ドキュメンタリー映画鑑賞」を行った。 3、3学期は「平和への提言」の作成と発表を行い、クラスごとに「提言集」を印刷、配布した。	A	生徒は真面目に、熱心に取り組んだ。特に講演会など、外部からの来訪者に対して、丁寧な対応ができた生徒が多かった。 平和への提言は、各自自分の考えを述べることができた。冊子を配れたことはよかった。	
学年行事	スキー修学旅行	1、一生懸命取り組む心や協力・助け合いの精神を育てる。 2、雄大な自然を体験する。 3、寝食を共にし、友人の新しい一面を見つけ、思いやり・譲り合いの心を育てる。	1、中学生生活の集大成として、これまでの行いの反省に基づいて、自律の精神で正しい団体生活を行うよう勧めた。 2、スキーでは、インストラクターの指導を厳守して、安全に、楽しく実習を行うように指導した。 3、団体生活において、整理整頓やけじめを付けた生活ができるように指導した。	A	インフルエンザや感染性胃腸炎など、感染症の発症は少なかった。体調を大きく崩したり、大きなケガや事故もなかったのがよかった。 スキーについては、プログラムを楽しめた生徒が多かった。 集団生活のけじめやマナーについては、今後も根気強く指導していく必要がある。	
	遠足	自然に親しみ、友人と交流を深める。	往路は、新神戸駅からトゥエンティークロスを通り、森林植物園に行った。帰路は、山田道を通り、神鉄・谷上駅で解散した。	A	新緑の緑の中、すがすがしい一日を過ごすことができた。	
	校外学習	学校生活の良い息抜きとして、一日を友人と共に楽しく過ごす。	京都の「太秦映画村」で時代劇のセットを見学し、アトラクションを楽しんだ。	A	移動をせずに1カ所での滞在だったので、のんびりと過ごすことができた。セットやアトラクションについても楽しんでた。	

高校1年生

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
高校1年	学年目標	学年目標の徹底	中1からの継続目標として、「恕」を、常に心がけるようにさせる。 高1独自の目標として、「高校生になろう！」という目標も追加する。	1、学年の掲示板と各クラスの教室に掲示し、意識付けをはかった。 2、高校生として、自ら気付き、考え、話し合い、行動するように促した。	B	それなりの意識づけはできたと思われる。
	生活指導	指導方針の確認と指導体制の推進	学校の規定を遵守させる。年度初めに方針の確認をする。	1、学年の教師の間で、常に生徒の情報を報告し、共通の理解と指導ができるようにした。 2、クラスによって指導に差が出ないように確認しあった。 3、常に保護者との連絡を密にして、家庭の協力も得ながら指導した。 4、遅刻の多い生徒に対して、保護者と共に原因と対策を話し合うことを要望する注意文書を郵送し、返事を送付してもらった。 5、個人的なブログを開設している生徒の指導をおこなった。	A	ほぼ達成できた。 職員室で、随時クラスのこと、生徒のことなどを話題にし、共通理解をふかめようとした。 ・全体には遅刻は減少した。
	学習指導	目標を持たせ、学習意欲の向上と学力の定着	授業を大切にすることを徹底させる。 自宅学習の習慣を身につけて基礎学力をつける。 生徒同士が切磋琢磨して学習する雰囲気を作る。	1、個人面談などで、各自の学習状況を把握し、改善点などの指導をした。 2、夏休みに国語・数学・英語の進学補習を実施した。 3、進学補習受講者を対象に、1泊の「勉強合宿」を実施した。 4、希望者の論述テストを実施した。 5、「英語特別クラス」の取り組みとして、マリスタブラザーズ国際学校との交流を持ったり、イングリッシュキャンプを実施したりした。 6、早朝に勉強する「朝の学習」を呼びかけ継続実施した。 7、3学期には、昨年度同様「授業態度に関するアンケート」を、教科担当者全員に実施し、問題点を明らかにしたり、指導が必要な生徒の面談をしたり、クラス全体に問題提起をしたりした。必要な場合は、保護者にも連絡して理解と協力を求めた。その後、学年の教師が適宜授業参観もした。 8、外部講師を招いて「教育講演会」を実施した。	B	総合学習と関連して、各自が自分の目標を持ち、地道な努力を継続させるように指導するのは難しいが、さまざまな方法でアプローチする必要がある。
	総合学習	進路学習	自分の適性を知り、将来の生き方を考え、進路を決定していくようにする。	1、高2のコースIの決定が早いので、例年より早く大学入試の説明などをした。 2、学問研究などをネットや資料を利用して調べた。 3、夏休みにオープンキャンパスに参加することを課題にした。 4、現役大学生の話を聴く「進路ライブ」や先生の体験談を聴く機会をもった。 5、大学の先生による「模擬授業」を実施した。 6、看護師と保育士として働く卒業生の話を聴く「キャリアガイダンス」や、14の分野に分かれた「職業体験」を実施した。 7、1年間の学習を振り返り、自分の感想や意見をまとめて、クラスで発表した。	A	生徒は真面目に、熱心に取り組んだ。
学年行事	平和学習(広島)	中3からの平和学習のまとめをする。	1、原爆資料館の見学と、ガイドの話を聴きながら碑めぐりをした。 2、レポートを書き、優秀なものを冊子にまとめた。	A	生徒は熱心に見学していた。メモがとりやすいようにバインダーを購入したのは役立った。	
	校外学習	世界遺産をめぐり、歴史に関心をもつ。 友人との親交を深める。	1、クイズ形式の事前学習をして興味付けをした。 2、グループに分かれて見学した。	B	東大寺の見学は、観光客が多くクラス単位でするのは困難だった。	

高校2年生

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
高校2年	学年目標	学年の目標の理解と実践	学年目標「自ら動きだそう！」を理解させ具体的に実践させる。	1、学年の目標を「学年だより」などを通じ生徒に伝え、日常の様々な場面で具体的に実践させるように伝えた。 2、昨年より、生徒の行動に積極性を持たせるよう、様々な場面で考えさせる場面を作った。	B	それぞれの行動に徐々に責任と自覚が芽生えたがまだまだ十分とは言えず、今後も指導を継続する。
	生活指導	継続的指導	学校の規定を遵守させる。 あいさつの励行	1、学年教師が日常的にあきらめることなく注意を行い、指導をやり続けた。 2、遅刻をしないなど、保護者とも連絡を取り合い基本的な生活習慣がつくように指導した。 3、教師が率先して、生徒に対しあいさつを心がけた。また、「学年だより」等であいさつの必要性を伝えた。	B	風紀面・マナー指導など、教師が継続的に指導する。 保護者への連絡を増やし、理解を求める。
	学習指導	学習意欲の向上と学力の向上	1、高校2年生としての進路を見据えた学習指導を行う。 2、生徒の個々のレベルに応じて指導する。	1、希望進路に応じたコース制をとった(3コース制)。 2、集中して授業を受けるように指導した。 3、定期考査前後に個人面談を行い、特に学習意欲の薄れてきた生徒には注意し励ました。 4、年3回の実力考査実施。さらにオプションの実施。+希望者実力考査(マーク式)を行った 5、夏休みに進学補習を実施した。 6、各教科必要に応じ、補習・個人指導を行った。 7、英語の習熟度別授業を実施した。 8、校内予備校の実施(現代文・英語)	B	日常の学習習慣を付けさせるために日々、指導を続けた。 次年度は、個人面談の回数を増やし、進路相談等に応じたい。 今後も進路に向けて、目標を持たせられるよう指導を継続する。
総合学習	進路学習	自分にふさわしい、自分の進むべき道を選択できるように、いろいろな方面からアプローチする。	1、1学期には「進路シミュレーション」を行い、一般入試に始まり、各入試システムについて学んだ。また、それぞれの希望進路別の入試システムの理解度を深めるため「入試チャレンジ検定」を行った。 2、2学期後半より、「自己アピール文」「志望理由書」を作成し、外部の論述模試を受験した。 3、3学期には「進路ライブ」を行い、高3生から、受験対策等の話を聞いた。	A	受験に向けてのより実践的な指導が行えるよう心がける。 今年度行った論述模試は、ある程度の効果があったと感じるので、次年度も1回は実施の方向で考える。 卒業生との縦のつながりが持てたことは良かった、次年度も継続したい。	
行事	修学旅行	1、事前学習をしっかりと行い九州の風土や文化への理解を深めさせる。 2、事前行動計画をたて、現地でスムーズな行動がとれるようにさせる。 3、現地では、観光・体験等を通して九州の文化に触れる	1、ガイドブック作成を通じて、九州について学んだ。 2、長崎班別行動。ハウステンボス自由行動の行動計画を立てさせた。 3、現地では、太宰府参拝・イルカクルーズ・人吉体験学習等を通じ、様々なことを学んだ。 4、事後として、ホワイトブックの作成をした。	A	昨年の反省を元に行程を一部変更した点はよかった。 班別行動では、事前計画を立てていたせいか、生徒は満喫していた。 人吉体験学習では、プログラムによって差が生じたので、改善、検討が必要。	
	遠足	1、六甲山の自然に触れる。 2、友人との親交を深める。	1、登山を通じ自然を満喫する。 2、友人との交流を深める。	A	到着時間に応じて、カンツリーハウスでの、過ごす時間を検討。	

高校3年生

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
高校3年	学年目標	学年の目標の理解と実践	学年の目標 「あとはやるのみ！ 本気でやるのみ！」	特に卒業後の進路を定め、進路実現に向けて、日々努力する。	A	生徒の目標を確認し、個々に応じた進路実現のプロセスを伝えることが必要である。
	生活指導	継続的指導	きちんとルールを守れるように粘り強く指導する。	担任が中心となり、状況に応じて指導した。	B	教師全員が粘り強く注意し、指導することが大切である。
	学習指導	進路の研究と決定	自分の適性や関心に合致した進路を見つけ、受験へ向けて準備する。	1、4月の学年集会で、保護者と共に進路ガイダンスを行う。 2、4月と7月と9月に進路調査を実施。 3、計3回の実力テストを4月、6月、9月に実施。 4、5月に希望者対象の小論文テストを実施 5、1学期に各大学の入試担当者が来校し、校内入試説明会を実施した。 6、卒業生が進路アドバイザーとして来校し個人的な体験談を聞く機会を持った。 7、担任との進路に関する個人面談を実施 8、9月に具体的な進路説明会を実施。 9、夏休みに担任と生徒・保護者との三者面談を実施。 10、進路に関する情報を「進路ストーリー」というプリントで配布。	A	A0 入試・指定校推薦・公募推薦・松蔭特別推薦・一般入試など入試形態が異なるため、個々に応じた進路指導が必要である。 進路指導部との綿密な連携をしながら、担任も情報を整理し、的確な指導にあたる。
		受験指導	自分の進路実現のために受験に向けて準備する。	1、夏休みと3学期に進学補習を実施 2、計3回の実力テストを4月、6月、9月に実施。その際に数・理・社の科目についても希望者にオプションとして実施。 3、10月に希望者対象の5教科実力テストを実施。 4、5月に希望者対象の小論文テストを実施。	B	進学補習はできる限り個々の学力や入試レベルに応じた指導ができるように努力する。
		バザーでの社会貢献	バザーで自分たちにできる社会貢献を考え、実践する。	クラスごとに、「地産地消」「ゴミの減量」「ハーフサイズ設定」など社会貢献内容を決め、実践。	B	実践内容の宣伝を宣伝せきるよう工夫する。
		チャレプロへの参加	自分の興味や関心にに基づき体験学習をする。	ブルーアースプロジェクト、体験型プログラムから1つを選択し、日常学習では体験できないプログラムを自主的に実践。	B	過去の流れを踏まえて、内容を検討する。
	総合学習	小論文を書く	自分でテーマを見つけ、1200～2000字の小論文にまとめる。	1、情報検索（インターネット検索）ガイダンスを行う。 2、論文の書き方を学ばせる。 3、様々な講演を聴き、テーマ決定の一助とする。	B	論文作成方法の定着を図る。 学習成果を個々人に還元出来るように努める。
	行事	遠足	六甲山を登山し、神戸の自然に触れる。 友人との親交を深める。	新神戸～布引ハーブ園を登山した。	A	より良いコースを検討する。

教務部

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
教務部	教育課程	教育課程の作成	1. 基礎的な学力を身につける。	わかりやすい授業をめざすだけでなく、小テストの繰り返し、放課後の英語教室・定期考査後の補講・補習などによって、基礎学力の修得に力を入れる。	A	ジュニアブロックで定期考査後の補講・補習の拡充をおこなう。
			2. 生徒の学力や進路に応じた、きめ細かい指導をおこなう。	英語・数学などでグレード別クラスを編成する。また、選択科目を設置して進路に応じた指導をおこなう。土曜日に中学1年生対象の英会話教室、中学2年生以上対象にECC英検対策講座を実施した。高校2年生対象に校内予備校を実施した。夏休み中に補習週間を前後期2回設定し補習をおこなった。	B	土曜日に、高校3年生対象の校内予備校を実施し、高校2・3年生連続の受講が可能とする。
			3. 生徒の学力を正確に把握し評価する。	学力把握のため、定期考査以外に実力考査を学期ごとに年間3回実施する。また適宜成績を数値化して努力の成果を確認させる。さらに学習意欲の向上をはかるため、英語検定やトピック・漢字検定などを実施した。	B	実力考査実施後の学習指導を充実させ、定点観測を実施していく。 特別支援教育について、評価・科目履修・単位修得の問題点を確認し、改善していく。
			4. 体験的・問題解決的な学習を展開する。	総合学習において自主的な調べ学習、体験的・問題解決的な学習を展開する。高2の修学旅行、高1の広島平和学習、高3のチャレプロの挑戦など、校外でさまざまな体験・事前学習をする。	A	中学においてもキャリア教育の導入をはかる。そのために、保護者・卒業生・外部の人々の協力を求める。
研修	教員の研修	教員の資質を向上させるため適切な研修をおこなう。	○一昨年度から始まった研究指定学級を中学の1クラスで指定し、3か年のアセスメントに関する研究の総括を行った。 ○教科ごとに新任教員に対する研修をおこなった。	B	○教科の研修について制度化をはかる。 ○外部研修会にも積極的に参加する。	
国際理解教育	国際交流と国際理解	適切な国際交流行事をおこない、他国の歴史や文化に対する理解を深める。	今年度も、1学期に留学団体を通してアメリカ人生徒を受け入れた。中3・高1・高2を対象にニュージーランドのセント・ピーターズスクールへ短期語学留学を実施した。その事前学習としてニュージーランドの歴史・文化を学んだ。姉妹校である韓国・信明高校へ生徒を派遣し、授業参加、ホームステイなどを行った。訪問前に韓国語、文化の勉強会を行った。3学期には信明高校の生徒を受け入れた。神戸市のマリスタ国際学校と互いに訪問し合い、授業やクラブ活動を体験した。	A	2013年度の信明高校への派遣に向けて、韓国の言葉、文化の理解をさらに深める。 セント・ピーターズスクールへの派遣も引き続き行う。1学期にはセント・ピーターズスクールからの訪問団が来校する。	
芸術文化教育	芸術鑑賞行事	適切な芸術鑑賞行事を設定する。	2012年度は松蔭女子学院創立120周年にあたる年ということで、記念音楽会との名目で「大阪フィルハーモニー交響楽団の演奏によるクラシック音楽」を鑑賞した。 2013年度は古典芸能鑑賞の年となり、「能楽(観世流シテ方)鑑賞」を予定している。	A	年に一度の団体芸術鑑賞を設定するだけでなく、中1の「わくわくオーケストラ」といったような外部の芸術鑑賞の機会を積極的に利用し、また、芸術鑑賞に関するポスターを掲示し、生徒が様々な芸術に触れる機会を提供する。	
学校行事	適切な学校行事の設定	さまざまな学校行事において、生徒の運動能力や自主性を高めることをめざす。	運動能力向上のための学校行事として、体育祭・球技大会(年3回)・春の遠足(登山)・中2海洋キャンプ・中3スキー修学旅行・冬休みスキーキャンプを設定する。自主性向上のため、中1キャンプ2回・高1広島平和学習・高2九州修学旅行等を実施する。その他の学校行事として、文化祭・バザー・秋の校外学習などを設定する。	B	定期考査・学校行事の配列を更により良い形になるように考える。高校2年生実施の九州への修学旅行も実施場所の検討をおこなう。	

生徒部

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
生徒部	生活指導	服装規定の遵守	正しく制服を着用し、頭髪も自然のままにしておく。	担任・学年を中心に指導する。その上、違反者の生徒を生徒部でも指導する。頭髪指導についても検討をする。	B	頭髪違反者は減少傾向である。頭髪指導に関しては服装規定の変更も含め検討し公聴会を開き教員の意見を集約した。結果としては変更はしないまでも学校行事・対外的なものに対しきちんとした身だしなみを身につけさせ指導をしていく方向でいくことの確認はできた。
		登下校のマナー	交通ルール及び車内のマナーを守らせ、寄り道をしないようにさせる。	関係機関と連携し、登校指導の実施、及び補導活動（列車補導も含む）を定期的に実施する。	B	街頭補導での指導した生徒数は減少している。マナーに関する苦情はあるものの、逆にお褒めの言葉をいただくこともあり、少しずつではあるが、登校指導、街頭補導、下校指導の成果が表れつつある。次年度も引き続きマナーについての指導を続けいく事が望ましい。
		紛失・盗難の撲滅	教室の戸締めの徹底及び貴重品の管理を徹底する。	移動教室の際は、戸締めをさせ、貴重品（携帯電話や財布）は担任が預かる。また、校内を巡回し紛失・盗難を未然に防ぐ。	B	紛失・盗難件数はそれほど多くないが、貴重品管理に関しては、徹底した指導が望まれる。移動教室時の教室の施錠は特に注意を必要とする。生徒だけに任せず校内巡回など徹底する必要もあり。
美化指導	校内美化の徹底	トイレ・教室をきれいに使用させる。 各クラスの毎日の清掃活動を徹底する。 大掃除を実施する。	毎日の掃除に拭き掃除を取り入れる。 黒板クリーナーの集じん袋の粉をゴミ袋に捨ててから水洗いする。 大掃除の際、机・イスの脚についた毛玉を拭きとる。窓のさん・柵・傘たてなどの雑巾がけを徹底する。 トイレの掃除方法を指導し、きれいに保つようにする。	A	中学のロッカーの上や高校の廊下の窓のさん、傘立てなど雑巾がけのあとが見られ、きれいになってきたと思う。生徒も監督者も向上心を持って教室を掃除し、モップや掃除機など試していた。	
		ゴミの分別の徹底とリサイクル活動の推進	ゴミの減量化を図る。 美化委員が中心となり、ペットボトルのリサイクル活動を行う。	できるだけゴミを持ち帰るよう呼びかける。 燃えるゴミを捨てる時、小さくする。美化委員と教員がリサイクル活動を毎週、火曜日と金曜日に行う。	B	ゴミの減量化は、なかなかできていないと感じる。継続して呼びかける必要あり。ペットボトルの処理は順調に行われている。
生徒会指導	生徒会活動の活性化	生徒会活動に興味・関心が湧くようそれぞれの活動に工夫を凝らす。	エコキャップ運動・あいさつ運動など、年取り組み始めた活動の継続する。 校外清掃活動の回数の増やす。 東日本大震災被災者支援活動の継続（募金活動など）する。	B	活動を継続しつつ、より質の高いものになるよう、生徒会役員の意識付けを図る。また、一般生徒へ啓発の場を増やす。	
		学校行事の充実	体育祭・文化祭をよりよいものに変えていく。	体育祭運営をよりスムーズに行う。 競技について検討し、グループ内での一体感を持たせる工夫をする。 文化祭はテーマに基づき、それぞれの舞台演技・展示の充実を図る。 その他学校行事において積極的に参加するとともに生徒会としても生徒の自治能力を向上させる。	A	中学校での応援合戦などの新しい取り組みをよりよいものにし、グループ内での団結を高めるべく、準備段階で工夫をしていく。 文化祭では観客を意識した舞台・展示を作れるよう文化部と生徒会の話合いの場を充実させる。

	各委員会の積極的な活動	評議・執行・美化・保健・特別の各委員会に目標を持って生徒主体の活動を目指す。	評議委員会等の連絡が円滑になるよう工夫する。 ゴミの分別を確実に行う。 生徒会関係冊子の充実に努める。	A	各委員会での取り組みを継続していく。必要があればそれらの精選も検討する。
安全教育	防火管理体制を整え自衛消防に努める。	年3回の避難訓練の実施を目標とし、教職員および生徒の防火意識を高める。	生徒に連絡する訓練と抜き打ちとする訓練とを行い、それぞれの場合できちんと避難できるようにする。また、教職員対象に火災報知器訓練を行い、各教職員が対応できるようにする。	A	有事に備え、生徒・教職員の防災意識を啓発し、高い状態にしておく。また、訓練だということで気持ちが緩まないように指導する。
	校内危機対応意識を高め、不審者の対応に努める。	それぞれの役割を把握し、不審者対応講習を行う。	中学1年生に防犯教室を実施する。また、教職員は、校門指導・下校指導と連動し、不審者から生徒の安全を確保する。	A	生徒の防犯意識を高め、自己防衛出来るようにする。
	自転車通学者への安全の意識を高める。	全校生徒に年1回の講習を行う。	自転車通学者リストを作成し、交通安全講習会を行う。講習会は、全校生徒対象。道路上では、被害者にも加害者にもなりうることを自覚させ、安全意識を高める。	A	自転車通学者を含む生徒の安全の意識を高める。
	応急処置の意識を高める	緊急時に正しく的確な応急処置ができるようになる。	年一回、AEDを用いた心肺蘇生法の講習会を行う。継続的に講習会を行うことで、より新しい情報を取り入れる。怪我の手当についても講習会を開き各教職員の応急処置の技術・知識を向上させる。	B	できるだけ多くの教職員に、応急処置が必要になった際にすぐに動けるようになってもらう。
性教育	生徒の実態に応じた性教育の推進	性についての知識の浸透を図り、教科・学年と連携をとりながら、目標を掲げて取り組む。	中学2年生と高校2年生に性教育講演会を実施する。性に関する問題・現状を知り、思春期の心身の発達を理解する。そして、中高の性教育への取り組みの系統化について検討する。	A	来年度から高校2年生の授業で保健がなくなる。これまでは授業内容と関連させて依頼をしていたが、また来年度以降、どのような内容とするか検討する。

宗教部

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
宗教部	日常礼拝の実施	お話し当番表の作成	各学年等にお話の当番をスムーズに割り振る。	当番学年への事前連絡 聖書朗読者の名前を確認し、朗読箇所を知らせる作業が遅くなりがちだったが理解された。	A	今後、お話しをする方が偏らず、誰でもお話しいただくことを課題とする。
		オルガニスト当番	オルガニストを手配し、早期に聖歌番号を決定	新聖歌集が配布されてから、少しずつ新しい曲も浸透してきているように思う。	A	今年とりれた新しい曲も、しだいに浸透するようになってきている。
		生徒の参加に関する指導等	礼拝をよい状態で迎えるよう工夫する。	礼拝前に黙想を行いオルガンの奏楽にもより礼拝を始める雰囲気を作った。	A	礼拝へ積極的に参加できるように、継続して行う。
特別礼拝の実施	説教者選定	適切な方を選定依頼	多方面からの説教者から話を聴いた。	A	努力を続ける。	
	オルガニスト・聖歌隊手配	併せて聖歌の決定	各クラブやオルガニストの方からアプローチをかけてくださった。	B	各方面と連絡を密にとって、これからも継続していく。	
	式次第作成	説教者や聖歌隊と協議し式次第・式文を作成。	各式に適切な選曲、聖句、祈りを選択。	A	よりいっそうの研鑽を続けていく。	
宗教週間の諸行事実施	各種プログラムの企画立案	生徒が参加したいと思い、宗教週間の主旨に合うプログラムを考える。	キリスト教に関連する本やグッズ、パンの販売を企画した。クリスマスの飾り作りも行った。	B	情報宣伝活動をより積極的に行って生徒に訴えかけ、さかんに参加するようすすめる。	
その他礼拝	参加自由礼拝の企画	親しみやすい集まりを持ちキリスト教に興味を持ってもらう。	お誕生日礼拝、逝去者記念礼拝、震災記念礼拝、キャンドルサービスなどを行って、ずいぶん参加者も増えた。	B	普段の早朝礼拝などにも、これからも積極的に生徒へ呼びかけて、広めていく。	
各奉仕活動の実施	特別養護老人ホームきしろ荘関連	施設と協議を重ね利用者、生徒共に有益なプログラムを考える。	年2回の喫茶サーヴィス、クリスマスの飾り付けを企画した。関係クラブや生徒会にも協力を要請。	A	生徒会や有志生徒、茶道部などクラブへも協力依頼する。	
	真生乳児院関連	施設と協議を重ね利用者、生徒共に有益なプログラムを考える。	1, 2学期を中心に年2期(13回)の育児体験を企画。広く応募を呼びかけて参加を促した。	A	今年度も多くの生徒が参加希望をし、年2回の各々の参加日も定員を満たした。	
人権教育活動の実施	生徒向けの人権研修の企画立案	今の諸問題を的確に生徒に伝えることが出来るように留意する	生徒向け人権映画として『海洋天堂』を鑑賞した。礼拝においても何度か、解説を行い、生徒からも感想文を集めた。	A	生徒からの感想も率直なもので好感触である。今後も啓発を続けて行きたい。	
	啓発文書の作成	わかりやすく伝えていく。	人権映画鑑賞にあわせて映画の解説・見所などを掲載した『チャペルニュース』を発行。事前に礼拝でも問題提起する機会を持った。	A	型どおりではなく、いろいろな意見を持つよう準備でき良好。これからも継続する。	
	教職員向けの人権研修の企画立案	教育を行う上で大切な人権感覚を養うことが出来るように考える	全員研修として講演会を予定したが、先方の都合などで延期、来年度回しになった。	B	生徒と同時に教員の啓発活動も行っていくうえで問題に対する深い洞察力を養う。	
宗教教育に関するプログラム実施	様々な場面で行う宗教教育プログラムの企画立案	キリスト教への興味関心を持たすことが出来るよう考える	神戸教区主催の広島平和礼拝に参加するプログラムを企画。また、教会の礼拝やバザーに参加、ボランティア引率することも企画。	A	今年は参加者が増加したが、次年度も継続して行えるようもっと参加を呼びかける。	
啓発文書の発行	「青谷」編集発行	キリスト教に関連する意見や思いを幅広く収集編集していく	例年の編集方針に従い、原稿依頼し、発刊した。宗教部の活動を広く教職員で共有できるよう務めていきたい。	B	概ねスムーズに原稿が集まった。広く一般教職員からも原稿を集めていく。	
	各種文書発行	時に応じて様々な文章によってキリスト教を伝えていく	各行事の連絡を兼ねてチャペルニュースを発行した。年間計6回発行した。	B	行事の時だけでなく、毎月生徒に配布できるように定例化をめざす。	
	聖句の教室掲示	教室掲示により聖書に親しみ、多くの箇所を読ませる	月1回の発行を目標に作成するはずであったが教室掲示することができなかった	B	今後も理解しやすい聖句を選び、生徒に浸透させる。	
関連諸団体との連携	献金・人的支援・その他	関連諸団体及び彼らが関わっている現場の状況を把握し、適切なサポートを考えていく	今年度は東日本大震災の被災者、ワールドヴィジョンジャパンに献金し、活動を行った。また、宮城県への震災ボランティアを行い高校生が16名参加してくれた。	A	必要とする所に献金、人的支援をこれからも続けて行って行きたい。特に東北へは継続支援が必要である。	

総務部

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
総務部	住所管理	個人情報の管理	住所等個人情報を正確に把握し、変更の場合には速やかに対応する。	変更の書類が来た際は写しを取り、ストックする。書類は事務所の担当係が打ち込み、随時、総務部係がチェックした。	A	事務室から受け取った写しの整理に努める。
	校内施設	各教室の管理	机・椅子数の把握。	不良品、修理の必要なものを交換する。	A	定期的点検と、早めに発注計画を立てる
		空き教室の有効利用	放課後校内で行われていることがら（部活動・補修など）を掌握する。	通常利用一覧表と、月ごとの「放課後教室利用一覧」を貼りだし、各責任者に記入してもらった。	A	各責任者に書き込みの徹底を促すとともに、通常活動の一覧を作成し、記入を簡素化する。
		施設使用状況の把握	校内施設の使用状況を各部署に連絡する。	月末に職員室、事務所、管理職員、守衛の4部署に使用状況一覧を配布し、周知をはかった。	B	校内イントラネット及び会議録で各部署の利用予定を掌握できるように努める。
		不良箇所の補修	様々な事柄に職員との連携を心がけて速やかに対処する。	できるだけ早く職員に連絡を取るようにした。必要な場合には業者に修理を依頼した。	B	定期的に、校内の見回りをする。修繕可能かどうかの見極めを適切にする。
	情報機器管理	情報機器管理	パソコンの設定・管理を随時行う。	新職員室及び講師室のネットワークの管理をおこなった。	A	ネットワークのセキュリティ面で問題がないか、日常的に検証をおこなう。
	管理・美化	校具・消耗品・清掃用具等の購入・分配	清掃用具・備品の補充、補修を適宜行う。必要な備品の検討・購入	生徒の清掃に関わる品物を総務部が購入、必要に応じて分配した。改修工事トイレが改装されたため、清掃用品を一新した。	B	定期的に在庫の点検をする。ある程度のまとまった量を購入し、コストダウンを心がける
		事業系ゴミの排出	ゴミを分別回収する。学校を清潔にするように努める。	指定ゴミ袋に分けて排出した。古紙類・ペットボトルなどは業者に回収を依頼した。産業廃棄物などは業者にたびたび依頼して排出した。	A	紙類の分別ができないか検討する。ゴミの削減に努める。
	視聴覚	視聴覚備品の管理・購入	備品を管理し、計画的に購入する。	必要な時に機材がすぐ貸し出せるよう視聴覚室を整理した。 機材の貸し出し予約方法を改めた。	B	視聴覚室の整頓を徹底する。
	広報	ホームページ（学校の広報）	分かりやすい内容に努める。 定期的に更新する。	できるだけ早く更新した。情報を見やすくすることを心がけた。	A	リニューアルしたHPをより魅力あるものにしていくために、各学年や記録係との連携をすすめる。
ハンドブック（校内のルール・約束事の周知）		訂正ゼロを目指す。	各部署に原稿の作成（訂正）を依頼し、3月中旬に納入できるよう努めた。	A	変更点や追加点はハンドブックに関わるかどうかその都度確認する。	
学校報（一年間の学校の記録）		記録として分かりやすい内容にする。	1年間の正確な記録を集め、一学期末の発行に努めた。	A	写真や資料も積極的に活用する。	
資料	写真などのデータの一元化、資料の整理・保存	学年で撮影した写真のデータを集約する。また、資料を計画的に保存する。	写真データ収集を各学年に依頼した。VHSテープを業者に依頼し、DVDで見られるようにした。 資料リストの作成をした。 資料の貸し出し方法を改めた。	A	古い資料の整理を進め、系統的な整理に努める。今後の資料の整理・保存についても検討する。	
総務・渉外	業者との連絡依頼を速やかにする。	依頼を受けた後できるだけ早く対応する。	業者とは連絡を密に取るように努めた。依頼を受けた部署に対しては結果報告に努めた。	B	頻繁に故障するものに関しては定期的なメンテナンスや買い換えなどを推進する。施設管理職員・事務職員と協同して仕事を円滑に進めるよう努める。	
	式典・学校行事	職員との連携をはかりつつ、会場等の準備を適切に進める。	設営等は職員にあらかじめ依頼内容を添付し、作業してもらい、終了後点検を行った。	A	設営作業がスムーズに行くように式典前の講堂使用について気を配る。	
	バザー	当日に至る準備、生徒・教職員に対する内容の周知をはかる。	リユース食器の利用、レンタル器具の活用、PTAや同窓会、ゴミ回収業者との打ち合わせを密にすることを心がけた。	B	リユース食器などにかかる諸費用の抑制に努める。ゴミそのものが少なくなるようなバザーの在り方を検討する。 雨天時の対策をさらに検討する。	
		緊急連絡網の補い	休校などの緊急連絡が円滑に回るよう努める	必要な場合、メールによる緊急連絡を実施し、未到達者に対しては、電話で連絡した。	B	計画的にテストメールを配信する。配信エラーとなる者に対しては、文書により再設定をお願いした。

進路指導部

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
進路指導部	進路指導	進路指導体制の充実	目標や夢を持つことと、目標達成に向けて努力していくことの大切さを伝える。	中学段階での進路指導の修正。特に、中1は社会を知る機会を増やした。また、新カリキュラムに応じて、中3での進学指導の時間も増やした	B	総合の時間の柔軟性のある使い方が不可欠。
			中高6年間のそれぞれの発達段階に応じ、進路指導部と学年が連携しつつ、体系的な進路指導を実施する。	各学年の進路指導部の教員を中心に、進路指導部の体系的な指導の実現を図った。	B	高校の各学年に年間を通して担当する進路指導部の教員が最低一名必要。
	進学指導の充実	総合的な学習を利用して、学問・大学研究をし、高校卒業後の進路に付いて早期から考える。	新カリキュラムに応じて、高1総合での進路学習の時期を前倒しにした。指定校推薦用の推薦席次作成や、理科社会の実力考査の扱い等、生徒に実力をつけさせるためのルール改正を行った	B	ルール改正を実践していく上で、その効果に注意も必要。	
		進路状況について分析を行ない、進学指導に生かす。	実力考査の中高での今後の定点観測をめざした。	B	過去のデータと現在の生徒の実力を比べつつ指導していく。	
	キャリア教育の充実	受験指導だけではなく、大学のさらに後の社会での生き方を考える機会を与える。	高1で職業ガイダンスを行ったが、生徒たちは興味関心を持って取り組んでいた。	B	職業ガイダンスは次年度も継続したい。	
		職場体験をすれば勤労意欲の向上というような単純な考え方をせずに、創意工夫して、社会や自然とのつながりを実感しつつ、その後の人生で生きていく力につながるような気づきの機会を与える。	Blue Earth Project は今年も充実した内容を実施した。昨年、アナウンス不足で参加者が減ったことを踏まえ、入学前教育として実施。これを受けてこの活動に参加する機会になってよかったという意見が多かった。Blue Earth Project は、特色ある教育活動として、全国に広がっている。高2に加えて、高1でも社会貢献バザーを考え実施した。	B	社会的にも評価を得て、ノウハウや協力先を構築しているこの教育活動を、今後も充実を図るべく、生徒にアナウンスも必要。	

入試広報室

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
入試広報室	生徒募集関連事項	オープンスクール	小学生・保護者が本校の教育活動を体験・見学することで本校入学を志望するようにし、併せて入試に向けての学習動機付けとする。	大学への見学をやめ、中高でゆったりと過ごしていただけるようにした。食堂利用、パンの販売、制服試着コーナーを実施した。	A	ねらい通り、ゆったり過ごしていただけたようで、よかった。
		学校説明会	主に小学6年生保護者に対して入試の詳細について伝達し、併せて受験意志を固めさせる。	9～11月に3回実施し、礼拝も含め本校の教育内容を的確に説明した。	B	ご参加人数が減ってきている。内容、広報の仕方も含めて検討が必要。
		クリスマスの集い	冬のオープンスクールのイベントとして小学生に本校のキリスト教主義学校としての雰囲気を経験してもらう。	小学生のみなさんに楽しんでもらうことが一番の目的。そのために、事故がないように注意した。	B	本校スタッフの事前打ち合わせを十分行う。 ご参加の人数が減っているので、検討が必要。
		思春期母親学講座 ・中学受験セミナー	年度初めての広報イベントとして入試結果を報告すると共に、スクールカウンセラー講演などにより本校が生徒のこころの理解に努めている点を紹介する。	ホームページでも参加を受け付け、小学生の保護者の方々と一緒に考える機会として定着してきた。	A	ご参加いただいた皆様には好評だが、他のイベント内容も企画し、今後の実施を検討する。
		日曜日の学校説明会	10月の芦研模試会場で、これまでは個別相談を実施してきたが、学校生活より知っていただくために新しい企画で説明会を実施した。	担任の教員（中1・高3）、卒業生（大学生）、保護者の方からより身近な話を聞いていただいた。会場もアットホームな雰囲気を出すために図書館にした。	A	内容としてはよかったが、多くの方にご参加いただき、会場が狭かった。来年は実施方法を検討し、6月の模試会場でも説明会を実施する。
		校内個別相談会・学校見学会	入試直前の12月に校内での説明会を企画し、受験生・保護者への最後のアピールを行い、志望校未定者を志願、受験につなげる。	個別ブースを設置、また展示コーナーや資料コーナーを設けた。グループごとの施設見学も行った。	A	対応スタッフを増やし、比較的スムーズに対応できた。
		学外のブース説明会	主に保護者からの本校への質問に効果的に答え、受験意欲を喚起する。	可能な限り各会に参加し、保護者の本校に対する疑問・質問に対して的確な説明を心がけた。県下9女子校（小林・神戸国際・神戸山手・親和・武庫川・百合・甲子園・園田・本校）の「女子教育セッション」を企画・実施した。	B	保護者と直接話す機会を増やして、現場教員の「顔」が見えることをより可能にしていく。多くの説明会で来場者数が減ってきている。これまで参加していた説明会に今後も参加をつづけるかどうか、を検討する。
		学外の講演形式説明会	受験意欲を喚起し、校内での様々なイベントへの参加を促す。	塾主催等の会で本校の教育内容や特色が的確に明示される内容を企画した。 3月に「灘区女子3校合同説明会（神戸海星・親和）」を実施した。	A	特に他校との合同説明会では、本校の特色が際立つプレゼンテーションを目指し、誘引力を高める。2013年からは甲南女子も加わり、4校合同説明会になる。会場も広い会場に変更する。
		個別の学校案内	個別に案内する機会を持ち丁寧な応対によって教育活動を紹介する。	訪問者に対する学校側の窓口として適切な応対を心がけた。	A	スムーズな応対・説明を心がけ、担当者がどのような質問にも対応できるようにする。
		情報提供関連事項	学校案内冊子など	教育内容、卒業後のイメージを的確に伝達できるようにする。	スクールガイド内容を一部更新し、本校の現在の教育活動や校風が的確に表現されるようにした。	A
DVDなど視聴覚物品	本校生徒の様子を的確に伝達する。		放送部に学校紹介DVDの作成を依頼し好評を得た。	A	より魅力ある映像をつくる。	
中学受験雑誌記事など	本校教育活動を的確に伝達する。		記事原稿作成に協力した。	A	積極的な広報を行う。	
新聞雑誌記事掲載など	本校教育活動の紹介と入試関連日程の紹介。		本校の教育活動の紹介手段の1つとして積極的に掲載依頼を行った。	A	積極的な広報を行う。	
新聞雑誌広告・看板	本校教育活動の紹介と入試関連日程の紹介。		費用対効果も勘案しつつ雑誌・新聞広告、駅校内看板の作成・業者への依頼を行った。	A	積極的な広報を行う。	

	学校ホームページ	入試広報活動の一環として受験を検討する資料となるような内容を提供する。また入試広報イベントの告知・申し込みなどに活用する。	「入試ガイド」のページを中心に入試関連情報・イベント日程などを掲載した。また学校ニュースの掲載にも協力した。	B	総務部ホームページ係と協力しあい、学校の最新情報を発信する。外部説明会の情報もこまめに連絡する。
	ノベルティーグッズ等	受験生が魅力を感じるグッズの提供をはかる。	コーペアーのパタパタメモ等本校独自のグッズを製作した。	A	本校の特色に合致したグッズで、小学生に喜んでもらえるものを検討する。
学外教育機関への広報	塾訪問（全教員）	塾とのパイプを強化すると共に、本校教員が中学受験の現状を知る機会とする。	新入生塾アンケートよりリストを作成し訪問を実施。1名につき1塾～2塾を担当した。	B	引き続き訪問活動をすすめる。
	塾訪問（入試広報担当）	大手・中堅塾を中心にパイプを深め、より多くの塾生に本校受験をすすめてもらう。	年間を通じて複数回の訪問を実施し広報・入試相談を行った。	B	引き続き訪問活動をすすめるが、ただ訪問するだけでなく、内容を伴ったものにする。
	塾対象説明会	本校の教育内容を説明し、小学生・保護者に本校入学を推薦してもらう。	外部会場での実施をやめ、校内での実施に変更した。	A	本校の教育内容について周知する機会として拡充させる。 授業見学をあわせて実施したが、多くの先生方にご参加いただけなかったので、スムーズにご見学いただけなかった。時期をかえて、2回実施を検討。
	模擬試験会場	受験生・保護者に対して本校をアピールする機会とする。	10月に新しい説明会を実施した。これまでの説明会より、身近な方々から話していただいた。	A	新しい説明会は好評だった。 6月の模試会場のときも、説明会の実施を検討する。